

2017年6月9日（金）～11日（日） 九州ミヤマキリシマ山旅ツアー

天気予報通り、昨日に続いて今日も晴れました。

当初の計画を変更して、平治岳、大船岳 2山にチャレンジすることになりました。坊がつる湿原から望んだミヤマキリシマを、本日は間近に心ゆくまで楽しもうと思います。

2日目；6月10日 土曜日



5時には皆起きました。

予定を30分早めて5時半出発とする。朝食は山中で食べることにした。



朝の坊がつる湿原は空気が澄みわたっていた。

平治岳（左）、大船山（右）も良く見える。

（山荘看板前で記念写真）





出発前の入念な準備体操



鳴子川源流の小川に架かる石橋を渡ってい
ざ出発



湿原の木道上で

遠くではキジが鳴いたり、カッコーの鳴き声が湿原にこだましたりして、心地よいスタートである。



テント泊の登山客も多い。
天気が良いのでコッヘルでのんびりと朝食をとっている人もいる。

昨日の高知在住の夫妻もどこかのテントにいるはずだ。



平治岳と大船山との分かれ道に来た。
我々は平治岳に向かった。



「一人一石運動」の看板が出てきた。

山頂から流れ下る雨の為、登山道の土が削り取られて、ぬかるんでいる場所も多い。人手で石を運び、登山道整備の一助としている。



小一時間ほど経ったところで小休止。

少し汗ばんできた。



急登の登山道は黒土で少々ぬかるんでいる。



登山道脇にミヤマキリシマが現れてきた。



と思ったら、瞬く間に平治岳南峰のミヤマキリシマ群生が目の前に広がった。

鞍部の大戸越に到着だ。

思わず歓声が上がった。

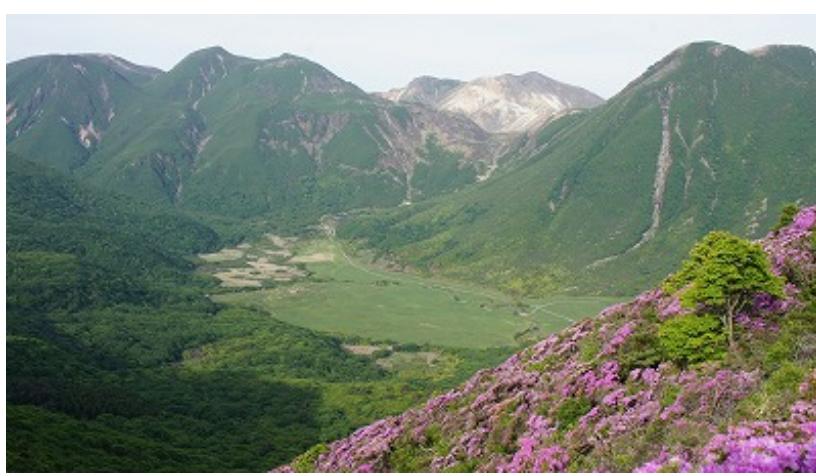
ミヤマキリシマも年によって不作の時もあるそうなのである。

猿渡さんによれば、今年はまれに見る当たり年だそうだ。





また登山客は多くない。
人で数珠つなぎになる前に、まず南峰を目指すことにした。



眼下には坊がつる湿原が広がっていた。
右：三俣山 奥：硫黄岳

平治岳南峰で暫し休憩

5年前はここまで登って来て、雨のために平治岳山頂行きは断念した。



7時20分

南峰から平治岳山頂に向かった。
時間が早いため、花を愛でながらのんびり
と歩けたのが何よりであった。



7時30分、平治岳山頂に到着（1643m）。



山頂から少し離れた、坊がつる湿原などを見下ろせる場所まで移動。

猿渡さんお勧めの、ミヤマキリシマが密集しているに最高の場所だそうだ。





7時50分頃には、平治岳山頂あとにした。

平治岳山頂と南峰との間は道が狭く、登山客が増えると行き交いのために大混雑になるそうだ。



平治岳と平治岳南峰の中ほどにある広々とした草原で昼食

さすがにお腹が減ってきて、山荘で作ってくれたにぎり飯が大層うまかった。



朝食を摂ってお腹が一杯になると、俄然元気が出てきた。

平治岳山頂付近のミヤマキリシマをバックに撮る最後の集合写真に納まって、南峰に向かった。



3人は南峰に鎮座する岩によじ登った。

全く、元気ですね～、握り飯が効いてきましたね～。



8時25分、平治岳南峰から下山開始

下り専用道なので行き交う登山客も無く、快適に下山した。



鞍部「大戸越」に向う。



ミヤマキリシマの囲まれた下山道を快適に下って、大戸越に8時40分到着

大戸越で暫し休憩

色あざやかなミヤマキリシマに隠れて目立たなかつたが、ツクシドウダンやフモトスミレが咲いていた。



ツクシドウダン



フモトスミレ



大戸越で一息ついて、これから北大船山へ。早速急登にとりついたが、昨夜の寝不足が効いたようで、池戸さんの足が重くなってきた。大汗をかき、しかも息も上がってきて大分きつそうだ。



40分ほどで急坂は終わり、あとはなだらかな登りとなった。

振り返れば、右手には今登ってきたばかりの平治岳が望め、左下には坊がつる湿原が見下ろせる。



大船山への登山道に咲いていた高山植物



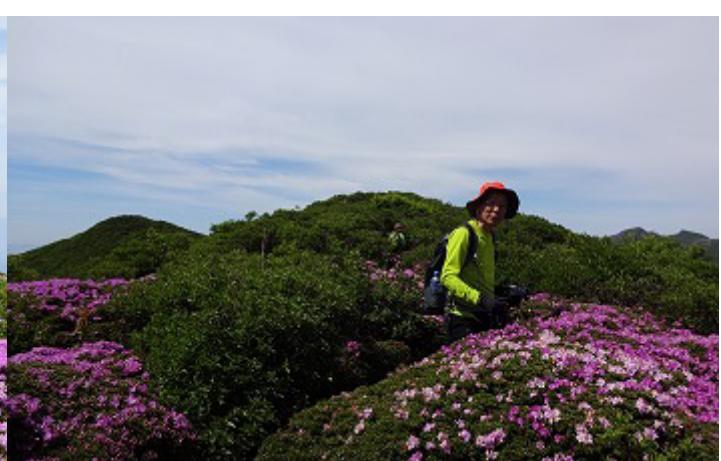
コイワカガミ



マイヅルソウ

北大船山山頂辺りでもミヤマキリシマが今を盛りと咲き乱れていた。

布目さん、岡部さんが指し示す先が大船山山頂だ。





10時8分、北大船山山頂（1706m）に到着



阿蘇の方に目をやると、お釧迦様の仰向けの涅槃像が浮かんでいた。

猿渡さんによると、こんな美しく見られるのは稀だそうだ。
お顔の山が根子岳、お胸のあたりが阿蘇・
高岳だそうだ。



ここから大船山までは30分くらいだが、池戸さんの疲労も増してきたので無理をせず、大船山登頂は次のチャンスに譲ることにした。

「北大船山、北を取ったら大船山・・・・てなもんだ！！！　　む一、ほとんど大船山に登った気分になってきた・・・。」



山頂から5分下った鞍部の段原で大休止

池戸さんはいささかお疲れだ。



段原には、見事なツクシドウダンが咲いていた。

(ツクシドウダンの花)



10分ほどの休憩後、坊がつる湿原に向かって下山開始



池戸さんはかなり疲れが溜まってきた。

身体、特に頭が熱くなってきてヒートアップ気味だとのこと。

休憩をこまめにとて事故が起こらないように、用心に用心を重ねて下ることにした。



途中、4, 50センチほどの二ホンアナグマが我々に近づいてきた。全く恐れる気配が無い。

本州、四国、九州の里山に棲息し、ミミズ、コガネムシなどを好物とするそうだ。盛んに土を掘り起こして何かを食べていた。



これも珍しいギンリョウソウ

今回は段原からの下山道だけで見ることが出来た。



12時丁度に、平治岳、大船山分岐の標識まで下りてきた。

今朝ここで我々が左に向かった分岐地点だ。

(左：平治岳 右：大船山)



坊がつる湿原まで下れば、法華院温泉山荘はもうすぐだ。



12時20分、法華院温泉山荘に到着

冷たい水が何よりもご馳走だ。
池戸さんは、ヒートアップした頭に冷たい水をかぶり、やっと人心地が着いたようだ。



山荘での昼食は、全員牛丼 (@ 800円)

なかなか、良いお味でした。



山荘で1時間ほどのんびりして、1時20分過ぎにレンタカーの置いてある吉部の駐車場に向けて出発した。



湿原を抜けて暫くは平たんな道だが、大船林道分岐を過ぎると、急坂を下っていかなければならない。



(登山道脇のガクウツギ)

小一時間ほど下ってやっと駐車場に向かう道に着いた。昼食時の休憩で池戸さんもすっかりスタミナを回復。



15時10分

暮雨茶屋駐車場に戻ってきた。

茶屋のサービスで暖かいコーヒーをご馳走になり、人心地が着いた。

駐車場からはレンタカーと猿渡さんの車に分乗して湯布院に向かった。

快調に車は走り、1時間ほどで本日の宿「蓮輪旅館」に到着した。



蓮輪旅館は民宿風の旅館で、特別な迎えも無く愛想も無いが、かえってその方が気が楽で、夕食までのんびりできた。



(旅館すぐ裏；単線のJR久大線が走る。)

風呂（温泉）は露天風呂

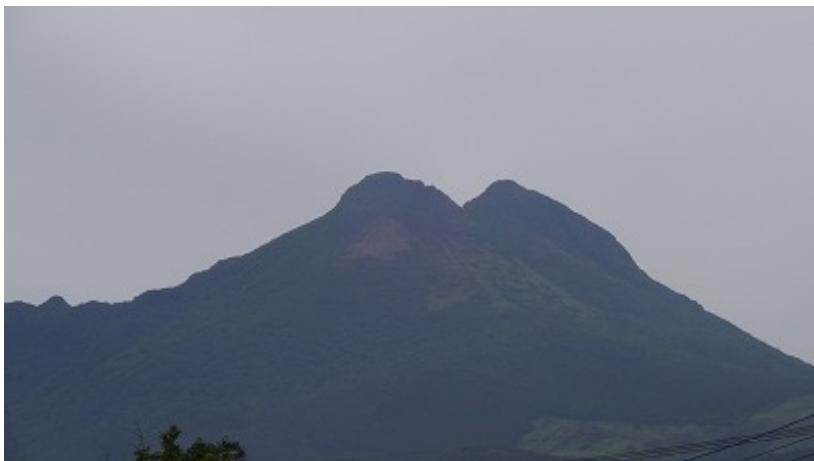


貸し切り状態で、山の疲れをすっかり癒すことが出来た。

左「愛の湯」



右「華の湯」



宿からは、双耳峰の由布岳が良く見えた。



夕食は我々のために個室が準備されていた。給仕は日本語が上手なネパール人男性2人。大変親切でもありました。

まずはビールで乾杯！！

猿渡、池戸氏；スッポン料理

布目、岡部氏；鳥料理

石井氏、吉松；牛料理

少しづつ分け合って楽しんだ。



スッポン鍋料理 (11,922 円也)



鳥料理 (9,762 円也)



牛料理 (9,762 円也)

(閑話休題)

今回猿渡さんが、大分産の日本酒「西の関」を持参してくれた。ご本人が自信を持ってお勧めする酒だ。これは大変旨かった。甘すぎもせず、と言って辛すぎもせず、すっと口から胃の腑に流れ落ちていく感じだ。勿論女性にも大うけだ。持参いただいた一升を、結局その日のうちに飲み干してしまった。猿渡さん、ご馳走さまでした。





蓮輪旅館はスッポン料理が売りもの。

スッポンは旅館前の池で大きく育っていた。卵、内臓、血なども調理して出してくれたが、特別癖がある味がするわけではなく、おいしくいただいた。

こうして本日も楽しく夜を過ごして暮れた。（なお、猿渡さんや池戸さんから、夜中に鼻血が噴き出したとは聞いていない。）

さて、明日の天気は、午前中雨模様。

無理はせずに湯布院のまちを散策することにした。ミヤマキリシマをあれだけ見たので、それだけで満腹で、無理して登らなくても良い気分にもなっていた。

朝はゆっくり起きて、8時に朝食を摂ることになった。